

## 祝辞

新入生の皆さん。保護者の皆様。入学おめでとうございます。私は、藤工第一回生、電気科卒業の石井と申します。宜しくお願い致します。

現在、我々同窓生は、9400名を超え、社会の各方面において様々な活躍をしています。その様な中で、最近しばしば考える事があります。それは、藤工生とは、藤工生らしさとは、どのような特徴があるのだろうか、という事です。

実は、先日行われた、イチロウ選手の引退会見を見ていた時、そのコメントの中に閃いた言葉がありました。それは、次のような言葉です。「人より頑張るなんてとてもできない。あくまでも測りは自分の中にある。それで、自分なりの測りを使いながら、自分の限界を見ながら、ちよつと超えていく、という事を繰り返していく。そうするといつの間にか、こんな自分になっているんだ、という状態になって。だから、少しずつの積み重ねが、それでしか、自分を越えていけないと思うんですよね。」

当たり前のことですが、藤工は職業高校であり、モ

ノづくりにも携わる人を育てる、学び舎。いわば、職人を作る場、とも言えます。そしてイチロウ選手もまた、グラウンドにおける職人ではないかと思うのです。

ですから、このコメントを聞いた時、恐らく、藤工同窓生の全員が、イチロウ選手のこの言葉に共感を覚えたに違いないと思いますし、藤工生らしき、神髄こそ、まさにここにある。そう強く思いました。

皆さんもこれから、諸先輩と同様に、3年間、各分野の勉強を重ねる上で、少しずつの積み重ねを大切に、日々、自分を越えていく努力をして下さい。その成果は必ず未来に繋がります。

そしてもう一つ、先輩として皆さんにアドバイスがあります。卒業するまでには、楽しい事ばかりではなく、様々なハードルも飛び越えて行かなければなりません。そんな時、私の経験からアドバイスするならば、先生との日頃のコミュニケーションを大切にしてください、という事です。工業高校は先程も触れましたように、主にモノづくりを学んでいく場。授業ではありませんが、教師と生徒で成果を作り上げていく場でもあります。その意味では、これまでの小中学校の授業とは、

かなり違いがあると思います。また、先生との年齢も近くなり、兄貴のような存在でもありません。お互い人間ですから、時にはぶつかることもあるでしょうが、良き相談相手に、きつとなります。活用、と言ったら先生方には大変失礼ですが、三年間、自分自身を磨くために、先生方をフルに活用して下さい。そして貪欲に成長して欲しいと願っています。

「希望を胸に、未来を拓け」

三年後の卒業式に、全員笑顔で、また会いましょう。

平成三十一年四月九日

群馬県立藤岡工業高等学校

同窓会長 石井竹則